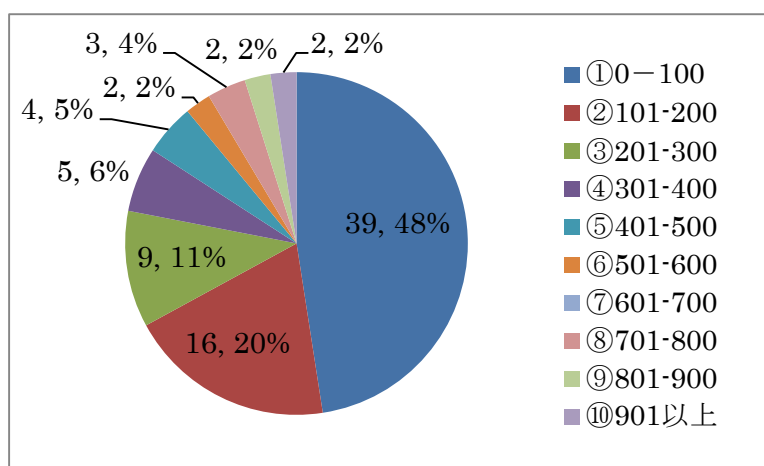


「災害時の避難に関するアンケート」調査結果

112 の自主防災会にアンケートをお送りした結果、3 月 22 日の期日までに **83 の地区** から回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。

・平均世帯数は 226 世帯で、最多世帯数は 1800 世帯、最少世帯数は 10 世帯です。約半数の地域では世帯数が 100 世帯以下です（①の部分 39 地域、全体の 48%）。



<グラフ 1：各地域の世帯数>

・「過去に人的被害のあった」と答えたのは 4 地区のみでした。被害を受けた時期と、どのような災害を受けたかは、<表 1>の通りです。

<表 1：過去にあった人的被害の時期と災害の種類>

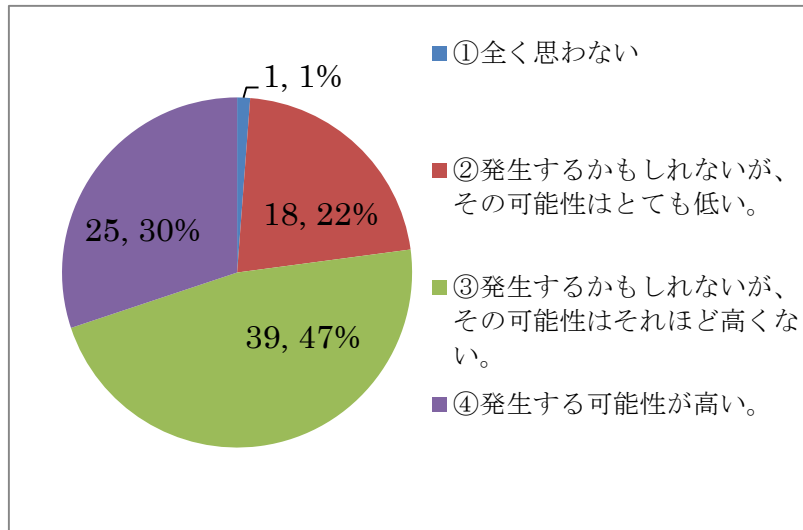
被害を受けた時期	災害の種類
昭和	室戸台風？
平成 10 年	大型台風
約 50 年程前	土砂崩れ
平成 10 年	9 月の大台風、山の木々、屋根瓦倒壊

★想定されている災害についてお伺いいたします。

Q1-1. お住まいの地域において自然災害が発生すると思いますか。1 つ選んでください。

- ①全く思わない
- ②発生するかもしれないが、その可能性はとても低い。
- ③発生するかもしれないが、その可能性はそれほど高くない。
- ④発生する可能性が高い。

【結果】



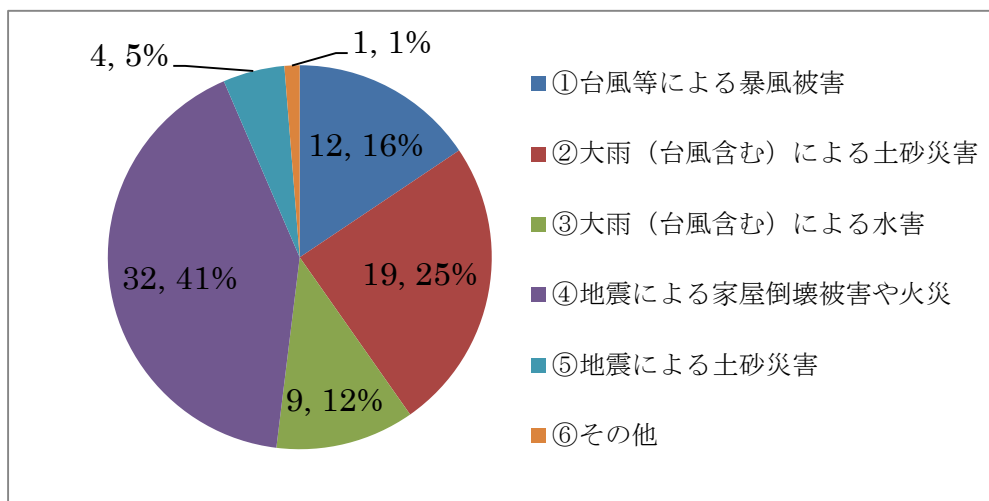
<グラフ 2：自然災害が起こる可能性>

83 の有効回答のうち、「(住んでいる地域で自然災害が発生するとは) 全く思わない」が 1 件 (全体の 1%)、「発生するかもしれないが、その可能性はとても低い」が 18 件 (22%)、「発生するかもしれないが、その可能性はそれほど高くない」が 39 件 (47%)、「発生する可能性が高い」が 25 件 (30%) でした。過去に人的被害を受けたことがある地域は 4 地域のみでしたが、ほとんどの地域で、自然災害が今後、発生すると思っていることがわかりました。

Q1-2. お住まいの地域において一番心配な災害はどれですか。1 つ選んでください。

- ①台風等による暴風被害
- ②大雨 (台風含む) による土砂災害
- ③大雨 (台風含む) による水害
- ④地震による家屋倒壊被害や火災
- ⑤地震による土砂災害
- ⑥その他 (具体的に：)

【結果】



<グラフ 3：起こりえる災害の種類>

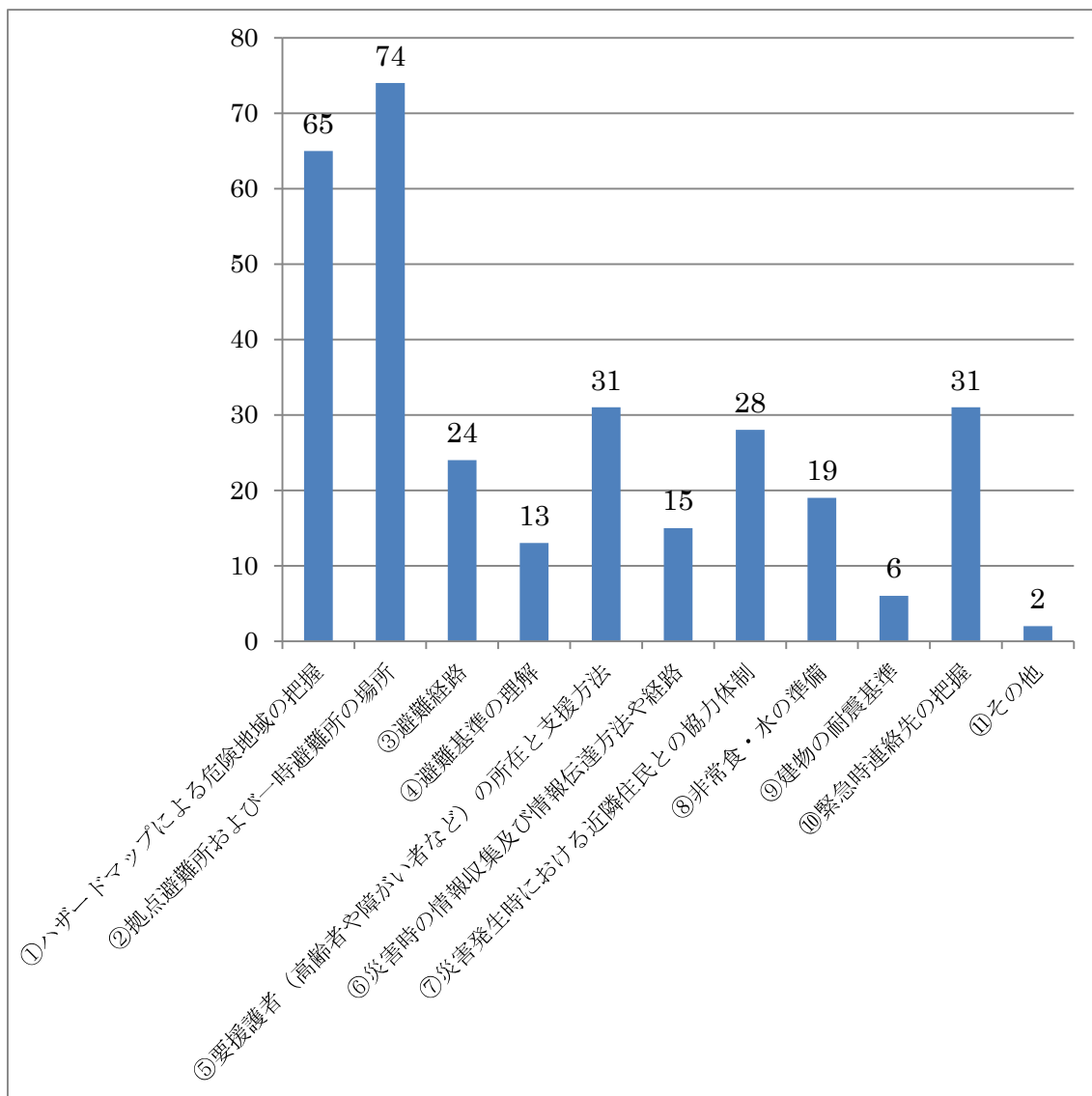
この質問に対する有効回答数は 77 でした。複数の選択肢を選んでいただいたものが 6 件あったので、それらを集計からはずしました。最も心配されている災害は 32 件あった「地震による家屋倒壊被害や火災」(41%) でした。その次は「大雨（台風含む）による土砂災害」(19 件、25%) でした。暴風、大雨などによる自然現象そのものではなく、それらに起因した家屋の倒壊や火災を脅威であると感じ出ている人が多いことがわかります。その他を選んだ方は「大雨・地震による池の決壊」を挙げられています。

★入手できる情報についてお伺いします。

Q2. お住まいの地域において確認できていると思われるものはどれですか。（複数選択可）

- ①ハザードマップによる危険地域の把握
- ②拠点避難所および一時避難所の場所
- ③避難経路
- ④避難基準の理解
- ⑤要援護者（高齢者や障がい者など）の所在と支援方法
- ⑥災害時の情報収集及び情報伝達方法や経路
- ⑦災害発生時における近隣住民との協力体制
- ⑧非常食・水の準備
- ⑨建物の耐震基準
- ⑩緊急時連絡先の把握
- ⑪その他（具体的に： ）

【結果】



<グラフ 4：確認できている情報>

複数選択の質問です。1件につき3.7の項目が選択されていました。一番確認が取れているのは「拠点避難所および一時避難所の場所」（74件）で、避難場所はほとんど知っていることがわかりました。次は「ハザードマップによる危険地域の把握」（65件）です。市から配布されているハザードマップは多くの方がご覧になっているようです。この2項目が突出して確認できている情報ですが、逆に「建物の耐震基準」はほとんど確認できていないことがわかりました。「拠点避難所および一時避難所の場所」、「避難経路」、「要援護者（高齢者や障がい者など）」に関しては、ごく一部の住民しか確認が取れていないという追加コメントがありました。

その他が2件ありましたが、「要介護者については、役所より氏名は頂いているが、個人

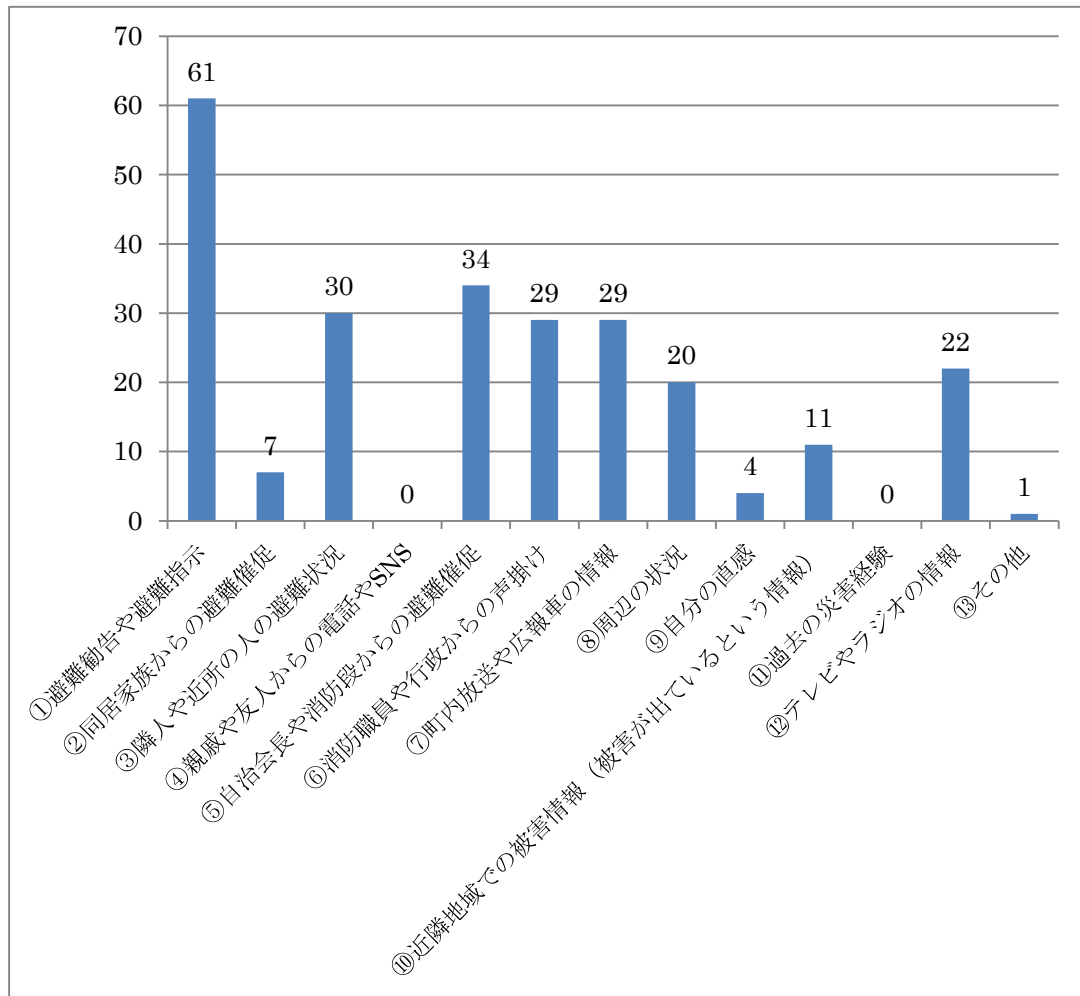
情報のため区長以外には知らせられない。緊急対応について理解できない」「現時点では、いざという時の対応についての意識があまり高くないと思われる」という記述回答がありました。

★情報に関する信頼度についてお伺いします。(複数選択可)

Q3. 住民の皆さんが避難を開始する判断基準は何だと思えますか。3 つまで選んでください。

- ①避難勧告や避難指示
- ②同居家族からの避難催促
- ③隣人や近所の人々の避難状況
- ④親戚や友人からの電話や SNS
- ⑤自治会長や消防団からの避難催促
- ⑥消防職員や行政からの声掛け
- ⑦町内放送や広報車の情報
- ⑧周辺の状況
- ⑨自分の直感
- ⑩近隣地域での被害情報 (被害が出ているという情報)
- ⑪過去の災害経験
- ⑫テレビやラジオの情報
- ⑬その他 (具体的に：)

【結果】



<グラフ 5 : 信頼できる情報>

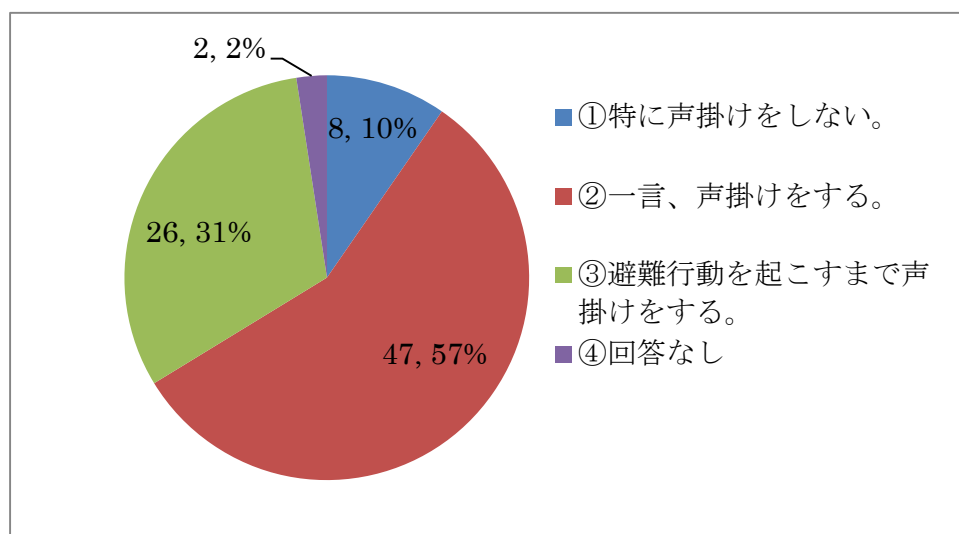
複数選択の質問です。1件につき1.9の項目が選択されていました。1番信頼できる情報は「避難勧告や避難指示」の61件でした。他の情報とは大差がついています。それに続いて「自治会長や消防段からの避難催促」(34件)、「隣人や近所の人からの避難状況」(30件)、「消防職員や行政からの声掛け」(29件)、「町内放送や広報車の情報」(29件)が、ほぼ同じぐらいでした。「親戚や友人からの電話やSNS」「過去の災害経験」は、共に0件でした。その他が1件ありましたが、具体的な記述はありませんでした。

★情報の伝達(声掛け)についてお伺いします。

Q4-1. 避難を躊躇する住民に対して声掛けをしますか。

- ①特に声掛けをしない。
- ②一言、声掛けをする。
- ③避難行動を起こすまで声掛けをする。

【結果】



<グラフ 6：避難を躊躇する住民に対する声掛け>

1番多かったのが「一言、声掛けをする」で47件、57%でした。次が「避難行動を起こすまで声掛けをする」が26件、31%です。この2項目を合わせると90%近くになります。「特に声掛けをしない」という答が10%に当たる8件ありました。

Q4-2. 上記の質問で「一言、声掛けをする」「避難行動を起こすまで声掛けをする」を選んだ方へお聞きします。声掛けをする場合、どのように声掛けをしますか。

【結果】

69件の記述回答がありました。その中で5回以上使われていた単語は「避難」「危険」「状況」「声」「一緒に」「班」「命」「説明」「掛け」「場合」「班長」「避難所」「訪問」「判断」でした。「掛け」は「声掛け」の一部分であると判断されます。

また、共起表現（任意の文書や文において、ある文字列とある文字列が同時に出現している表現）を調べたところ、下のような図になりました。単語と単語の間の線が太いものは、より多く一緒に使われていた単語です。赤丸の部分をもとにすると、声掛けに関する簡単な文や語句で浮かび上がってきます。

声掛け例は、以下のように集約されます。

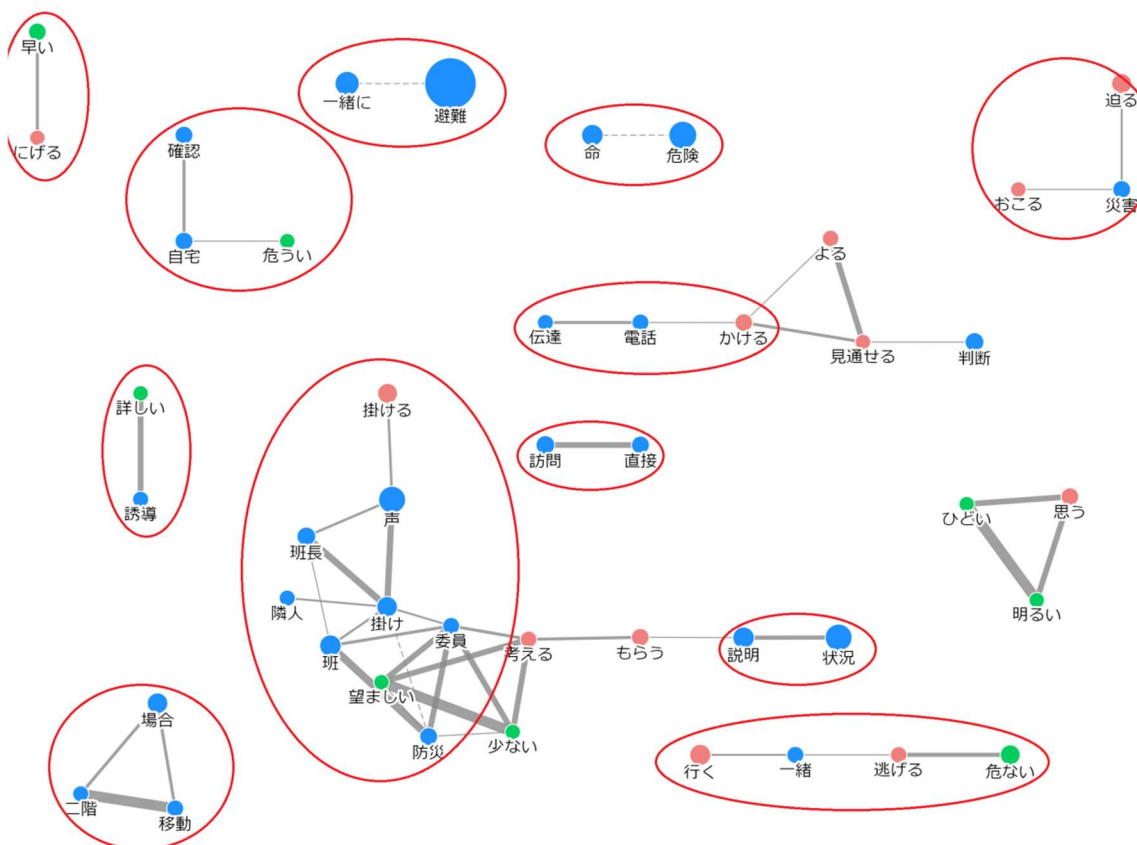
- ・はやく逃げましょう
- ・(危険な) 場合は2階に移動しましょう。
- ・危ないから一緒に逃げましょう (行きましょう)
- ・災害が起こりそうです (迫ってきています)。
- ・命が危ないです (危険です)。

具体的な声掛け例ではありませんが、共起表現の分析から「状況を説明する」「詳しく説明して誘導する」という回答があることがわかりました。

また、声掛けの方法は、以下のように集約されます。

- ・電話で伝達
- ・直接、(家を) 訪問

声掛けをする人は、隣人/班/班長/防災委員が挙げられています。



<図1：声掛けについて>

★それぞれの回答については別紙をご覧ください。

★AI テキストマイニングを使用し、共起表現の分析を行いました。

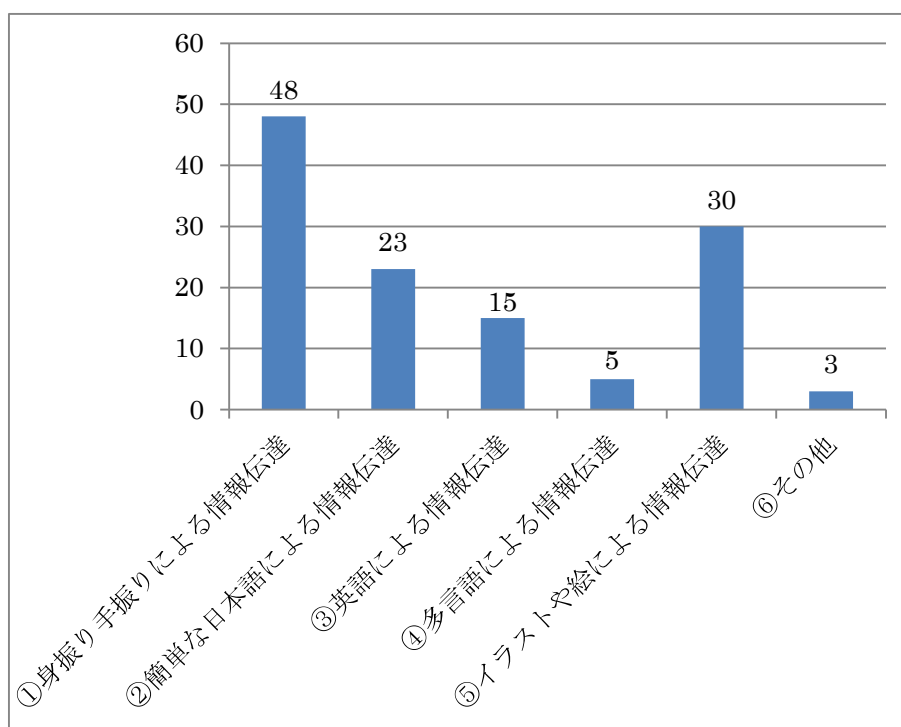
AI テキストマイニング by ユーザーローカル (userlocal.jp)

Q4-3. 災害時に日本による情報伝達やコミュニケーションが困難な人達（在日外国人や海外からの旅行者）には、どのような手段が有効であると考えますか。（複数選択可）

- ①身振り手振りによる情報伝達
- ②簡単な日本語による情報伝達
- ③英語による情報伝達

- ④多言語による情報伝達
- ⑤イラストや絵による情報伝達
- ⑥その他（具体的に： ）

【結果】



<グラフ 7：日本語による情報伝達やコミュニケーションが困難な人達への情報伝達手段
>

日本語による情報伝達やコミュニケーションが困難な人に対しては「身振り手振りによる情報伝達」を行うが48件でした。その次は「イラストや絵による情報伝達」が多く30件でした。上位2項目は音声言語ではなく視覚を利用した情報伝達方法と言えます。音声言語を伝達方法として使う場合の言語の種類は、簡単な日本語、英語、多言語の順という結果になりました。また、「サイレン」「現在、区内には、外国人は居住していませんがそう状況時には、対処しなければならない」「現時点ではない」という記述回答がありました。

- 自治防災に関する活動に関して、何か問題点や課題がありますか。

【結果】

50件の記述回答がありました。その中で5回以上使われていた単語は「防災」「自治会」

「自主」「体制」「避難」「組織」「必要」「住民」「訓練」「避難所」「高齢者」「災害」「活動」「意識」「区民」「課題」でした。

また、共起表現（任意の文書や文において、ある文字列とある文字列が同時に出現している表現）を調べたところ、下のような図になりました。単語と単語の間の線が太いものは、より多く一緒に使われていた単語です。赤丸の部分をもとにすると、自治防災に関する活動に関する問題点や課題が、簡単な文や語句で浮かび上がってきます。

- ・呼びかけても集まるのが難しい。

- ・高齢者が多い。

- ・危機感が薄い。

- ・意識が低い。

- ・避難訓練を行う。

- ・（災害）発生（時）の避難

- ・コロナ禍

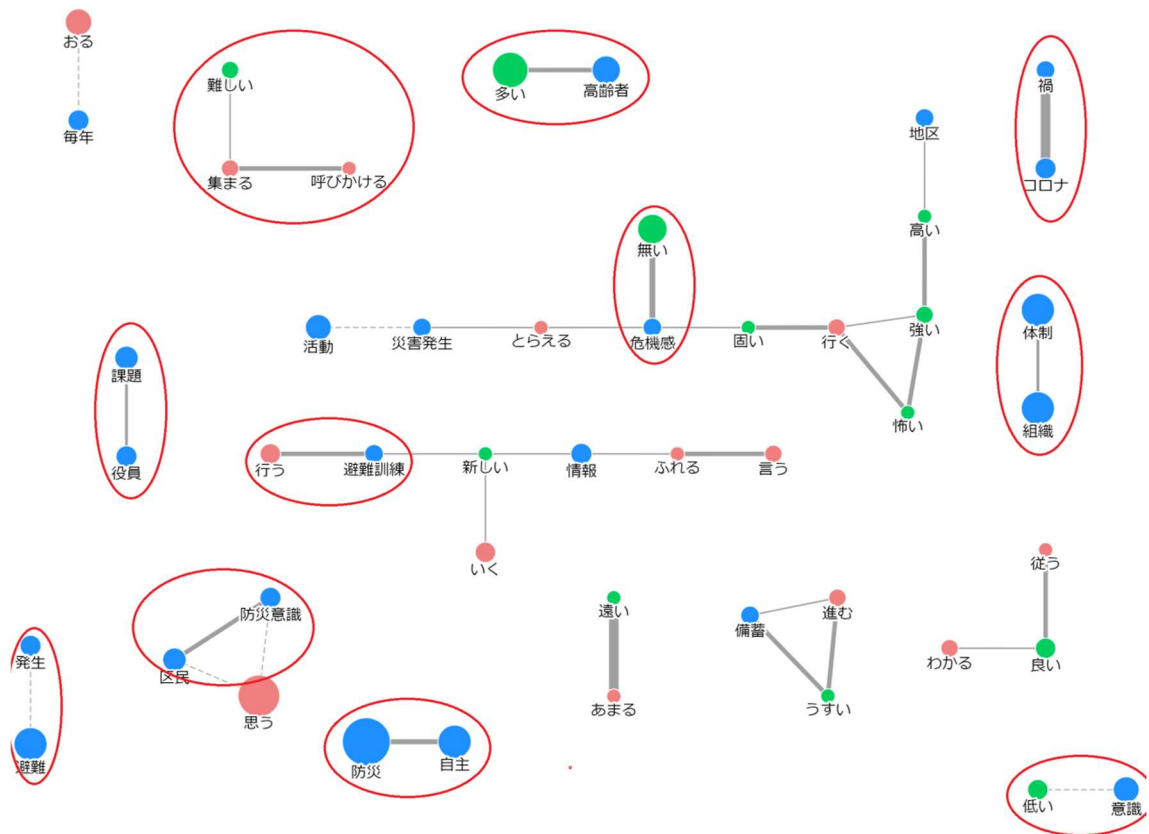
- ・役員の課題

- ・組織の体制

- ・区民の防災意識

- ・自主防災

これらを集約すると、「地域には高齢者が多く、また、住民の災害に対する危機感や防災意識は低いです。自主防災の組織の体制や役員、災害発生時の避難に関して、何らかの課題があるのでは？避難訓練を行っても、なかなか人が集まりません。」



<図 2：自治防災に関する活動の問題点や課題（共起表現）>

★それぞれの回答については別紙をご覧ください。

★AI テキストマイニングを使用し、共起表現の分析を行いました。

AI テキストマイニング by ユーザーローカル (userlocal.jp)